

# 富士養鱒場だより

第218号

平成25年5月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/>

## 平成24年のサケ科魚類の生産と魚病被害の状況

平成24年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況がまとまりましたので報告します。

### 方 法

県内でサケ科魚類を養殖している経営体にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量、被害額を調査しました。調査期間は平成24年1月1日から12月31日までの1年間としました。

### 結 果

#### 1 アンケート回答状況

魚種ごとの回答状況を表1に示しました。ギンザケでは100%、これら以外の魚種でも80%以上の回答が得られました。経営体数はギンザケで1軒増加し、アマゴで4軒、イワナで1軒それぞれ減少しました。実経営体数は35軒で、前年より5軒減少しました。

表1 アンケート回答状況

魚種	経営体数	回収数	回収率(%)	経営体数(23年)
ニジマス	19	18	95	19
ギンザケ	4	4	100	3
アマゴ	23	19	83	27
イワナ	7	6	86	8
その他	8	8	100	6

※その他にはヤマメ、ブラウントラウト、カワマス、サクラマスが含まれる

#### 2 魚種別生産状況

平成20年から24年までの生産量の推移を表2、生産金額の推移を表3、生産単価の推移を表4に示しました。魚種別生産量の合計は1,450tで平成23年と比べ213tの減少となりました。生産金額も平成23年と比べ39百万円減少し、過去10年間では最も低い生産金額となりました。

##### (1) ニジマス

生産量は1,279tで、平成23年と比べ229t減

少し、生産金額も622百万円で23年と比べ44百万円減少しました。これは、大手企業が撤退したことが影響したと考えられました。一方、販売単価は44円/kg上昇しました。

##### (2) ギンザケ・アマゴ・イワナ

ギンザケ、アマゴ、イワナの生産量はそれぞれ38t、39t、85t、生産金額は48百万円、54百万円、70百万円でした。平成23年と比べるとギンザケでは生産量は減少したものの、販売単価が261円/kg上昇し生産金額は増加しました。アマゴでは経営体数の減少等から生産量、生産金額ともに減少しました。一方、イワナでは生産量、生産金額ともに増加しました。これは、大型イワナの販売が好調であったためと思われます。

表2 魚種別・年別生産量(t)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H20	1,623	15	35	92	34	1,799
H21	1,757	21	32	124	22	1,955
H22	1,471	41	37	68	21	1,638
H23	1,508	46	57	48	5	1,663
H24	1,279	38	39	85	8	1,450

表3 魚種別・年別生産金額(百万円)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H20	806	24	47	70	22	969
H21	849	31	51	93	16	1,039
H22	687	44	45	51	11	838
H23	666	45	78	45	6	840
H24	622	48	54	70	7	801

表4 魚種別・年別販売単価(円/kg)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	全体
H20	496	1,655	1,355	760	538
H21	483	1,471	1,601	749	532
H22	467	1,071	1,231	750	511
H23	442	986	1,370	931	505
H24	486	1,247	1,378	824	552

### 3 魚種別魚病被害状況

平成 20 年から 24 年までの魚病被害量を表 5、被害金額を表 6、平成 23 年と 24 年の魚種別、疾病別の被害状況を表 7 及び 8 に示しました。総被害量は 82.1t、総被害金額は 67,321 千円で、23 年と比べて総被害量は 14t 増加、総被害金額は 4,592 千円減少しました。生産量に対する被害量の割合は 5.7%、生産金額に対する被害金額の割合は 8.4%でした。

#### (1) ニジマス

被害量は 77.3t、被害金額は 61,492 千円でした。平成 23 年と比べ、被害量は 15.1t 減少したものの、被害金額は 3,736 千円増加しました。疾病別ではミズカビ病と IHN の被害量が多く、ミズカビ病では親魚等の大型魚が、IHN では小型魚での被害が多く見られました。次いで、レンサ球菌症、ピブリオ病の被害量が多くありました。

#### (2) ギンザケ・アマゴ・イワナ

ギンザケでは 24 年は被害の報告がありませんでした。アマゴ、イワナの被害量は共に 2.4t、被害金額はそれぞれ 3,402 千円、2,427 千円でした。平成 23 年と比べるとアマゴでは被害量、被害金

表 7 魚種別・疾病別被害量(kg)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IPN	84	0	0	0	84
	2,012	0	0	0	2,012
IHN	20,504	0	0	1,167	21,671
	11,069	300	0	0	11,369
OMVD (ヘルペスウイルス症)	0	0	0	0	0
EIBS	0	0	0	0	0
	0	800	0	0	800
ピブリオ病	9,078	0	0	0	9,078
	17,386	0	0	0	17,386
せつそう病	0	0	1,332	93	1,425
	335	0	368	100	803
冷水病	1,847	0	61	0	1,908
	715	0	147	0	862
レンサ球菌症	17,944	0	0	0	17,944
	11,959	0	1,227	0	13,186
細菌性鰓病	1,425	0	0	0	1,425
	2,012	0	0	0	2,012
白点病	0	0	363	0	363
	0	0	123	0	123
竹材林双症	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ミズカビ病	21,428	0	617	0	22,045
	15,982	0	123	50	16,155
その他	0	0	0	1,167	1,167
	0	0	0	0	0
不明	4,539	0	0	0	4,539
	30,512	0	430	0	30,942
ガス病	422	0	0	0	422
	391	0	0	50	441
合計	77,271	0	2,373	2,427	82,071
	92,373	1,100	2,418	200	96,091

上段：平成24年  
下段：平成23年

額ともにほぼ横ばい、イワナではともに増加しました。疾病別に見ると、アマゴではせつそう病、イワナでは IHN の被害が見られました。

(松山 創)

表 5 魚病被害量

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H20	117.7	0.5	3.7	5.7	127.6
	7.3	3.4	10.6	6.2	27.5
H21	119.2	0.0	1.5	1.5	122.2
	6.8	0.0	4.6	1.2	12.6
H22	107.2	4.1	2.3	2.9	116.5
	7.3	9.9	6.3	4.3	27.8
H23	92.4	1.1	2.4	0.2	96.1
	6.1	2.4	4.2	0.4	13.1
H24	77.3	0.0	2.4	2.4	82.1
	6.0	0.0	6.0	2.8	14.8

上段：被害量(t)  
下段：生産量に対する割合(%)

表 6 魚病被害金額

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H20	75,659	500	3,906	4,240	84,305
	9.4	2.1	8.3	6.0	25.8
H21	57,803	0	2,051	1,410	61,264
	6.8	0.0	4.0	1.5	12.3
H22	75,211	2,625	2,245	3,720	83,801
	11.0	6.0	5.0	7.3	29.3
H23	57,756	850	3,228	895	62,729
	8.7	1.9	4.1	2.0	16.7
H24	61,492	0	3,402	2,427	67,321
	9.9	0.0	6.3	3.5	19.7

上段：被害金額(千円)  
下段：生産金額に対する割合(%)

表 8 魚種別・疾病別被害金額(千円)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
IPN	169	0	0	0	169
	2,012	0	0	0	2,012
IHN	24,561	0	0	1,167	25,728
	14,414	300	0	0	14,714
OMVD (ヘルペスウイルス症)	0	0	0	0	0
EIBS	0	0	0	0	0
	0	550	0	0	550
ピブリオ病	7,332	0	0	0	7,332
	9,727	0	0	0	9,727
せつそう病	0	0	2,566	93	2,659
	168	0	589	800	1,557
冷水病	5,520	0	121	0	5,641
	2,135	0	196	0	2,331
レンサ球菌症	8,075	0	0	0	8,075
	7,365	0	1,841	0	9,206
細菌性鰓病	1,395	0	0	0	1,395
	1,006	0	0	0	1,006
白点病	0	0	436	0	436
	0	0	37	0	37
竹材林双症	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ミズカビ病	12,002	0	278	0	12,280
	9,155	0	98	40	9,293
その他	0	0	0	1,167	1,167
	0	0	0	0	0
不明	2,248	0	0	0	2,248
	11,473	0	466	0	11,939
ガス病	190	0	0	0	190
	302	0	0	55	357
合計	61,492	0	3,401	2,427	67,320
	57,757	850	3,227	895	62,729

上段：平成24年  
下段：平成23年

## トピックス

### 天竜川漁協の谷高弘記氏が水産庁長官賞を受賞！

平成 25 年 2 月 28 日～3 月 1 日に、第 18 回全国青年・女性漁業者交流大会がグランドアーク半蔵門（東京都千代田区）で開催され、本県代表で発表した天竜川漁業協同組合の谷高弘記氏が水産庁長官賞を受賞されました。

発表演題は、「蘇れ、アユ躍る天竜川 一個人の取り組みから漁協の取り組みへー」であり、アユ資源の減少と長期化する濁りを何とかしたいとの思いで開始した取り組み（水産試験場の調査への同行、水温と濁りの観測）が、その後徐々に拡大し、アユ資源管理やその他の活動に繋がったとの内容でした。

本県における水産庁長官賞の受賞は 10 年振りであると共に、沿岸漁業における発表がほぼ全てを占める中で、アユ漁業を行う河川漁協の

受賞は全国初となり、全国的にも注目される受賞となりました。今後の更なる取り組みが期待されます。（鈴木邦弘）



水産庁長官賞の受賞者（右端が谷高氏）

### 第 24 回にじます祭が開催されました

平成 25 年 3 月 3 日に、富士山本宮浅間大社内での神田川ふれあい広場で、第 24 回にじます祭が開催されました。ニジマスに関する年に 1 回の大きなイベントであり、会場職員も全力を挙げて支援しました。

ニジマスに親しんで貰うアトラクションとしては、地元小学生による「ヘルシーニジマスくん」の歌と踊り、市長らによる記念放流、「育て鱒ター」による稚魚放流、つかみ取りなどが行われました。また、試食販売では、「にじますフライ」「塩焼き」などの定番商品に加え、骨皮煎餅やにじます弁当などの新商品も販売され、来場者の胃袋を満たしていました。

会場は、富士宮にじますのトップブランド「湧幻鱒」の展示と体重当てクイズを担当しました。昨年度は鮮魚での展示となりましたが、今回は大型水槽を使って生きたまま展示すること出来ました。体重当てクイズも併せて実施したことで、多くの方が湧幻鱒の迫力を体験していました。ちなみに、展示した湧幻鱒の体重は 6,495g でピタリ賞こそありませんでしたが、6,500g と書かれたニ

アピン賞が 10 本以上も出て、体重発表の会場は大いに盛り上がりました。

晴天にも恵まれたことで来場者が多く、つかみ取りの魚を何回も追加したり、食べ物も売切れになるなど、楽しいイベントになったと思います。来年の開催が今から楽しみです。

（鈴木邦弘）



会場が最も沸いた湧幻鱒の体重（6,495g）発表

## イオン富士宮店でにじますPRを行いました

平成25年3月3日に、昨年に引き続き、にじます祭りの会場近くのイオン富士宮店においてニジマスのPRを行いました。今年も県水産振興課が実施する「ふじのくに水産物PR事業」を活用して、ニジマスの鮮魚販売の他、ニジマスを使用した料理の店頭調理、試食、レシピの配布を行いました。鮮魚は、通常販売されているレギュラーサイズ(100g)に加え、今回初めて700g程の「中型魚」をフィレーや切り身で販売しました。これは、富士宮市内小学3年生の児童の保護者を対象に実施したアンケートの結果（養鱒場だより217号）から、調理の手間が少ない「切り身」等の形態を望む声が高かったことから、イオン富士宮店の協力を得て実施したものです。

試食については、店頭でホットプレートを用いて調理した「ムニエル」、「トマト煮」を1,000食提供しました。また調理見本として「骨せんべい」「竜田揚げ」「水煮」を展示し、これらすべてのレシピを配布しました。試食は非常に好評で、レシピを見ながら、ニジマスを購入し家で作ってみたいとの意見も聞かれました。販売も好調で、10:30から販売を始め17:00には用意した魚がほぼ完売となりました。「中型魚」の評価も高く、お客様からは「今まで売っていた？これなら調理しやす

い。」「また買いたいので、ぜひおいて欲しい。」といった意見も聞かれました。

今後もニジマスを美味しく食べていただけるよう様々なPRを行っていきたいと思います。

(松山 創)



## 興津川漁協の総代会でアユの資源管理について講演を行いました

平成25年3月10日に行われた興津川漁協総代会において、組合員代表（総代）130名を対象に、アユの資源管理についての講演を行いました。演題は、「興津川におけるアユの再生産実態と現行の禁漁措置の妥当性」です。

講演会では、興津川のアユの産卵時期は他河川に比べ1ヵ月以上遅いこと、産卵場所は上中流域にまで及ぶことなど、興津川の再生産の実態について紹介しました。その上で、現行の禁漁措置が実態に即しておらず、禁漁期間の延長や禁漁区域の拡大といった禁漁措置の見直しが必要であることを説明しました。

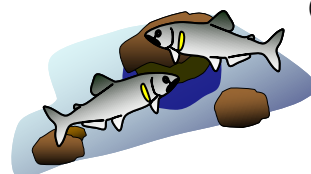
禁漁を拡大する提案であったので、組合員か

らの厳しい反論を覚悟していましたが、現行の禁漁期間が産卵時期に合致しておらず、親魚を保護できていないことを説明した際には驚嘆の声が上がり、禁漁措置見直しの必要性を理解していただけたと思います。

研究の醍醐味は、研究成果を現場で“活かす”ことにあります。当场としては、今後も現場と向き合った調査研究に努めますので皆様の御協力を宜しくお願いします。

(鈴木勇己\*・鈴木邦弘)

※現水技研開発加工科



## 人事異動

(転出) 研究員 鈴木勇己 → 開発加工科 研究員  
 (転入) 研究員 木南竜平 ← 水産振興課 技師

## 業務紹介

25年度の人事異動に伴い、当场では下記の体制で業務に取り組んでおります。今年度からは新成長戦略研究（新たなウナギ産業の創出—小規模河川における生息量の把握）も業務に加わりました。

限られた人員で最大限の成果を挙げていくよう一同努力します。今年度もよろしくお願ひします。  
 (川合範明)

担当業務	主任	副主任
1 富士養鱒場業務の総括に関する事	増元	□
2 予算・庶務及び観覧業務に関する事	鈴木(大)	川合
3 試験研究の企画調整に関する事	川合	木南
4 ニジマス養殖に関する事 (1) 低魚粉飼料開発に関する事 (2) 低魚粉飼料に適したニジマスの開発に関する事 (3) 品種改良に関する事	川合 川合 川合 木南	木南 木南 木南・渡辺 川合・渡辺
5 全国協議会に関する事 (1) 養鱒技術協議会事務局に関する事 (2) 養鱒技術協議会連絡試験に関する事	川合 川合 川合	木南 木南 木南
6 その他の冷水性淡水魚類養殖に関する事	川合	鈴木(邦)・渡辺・植松
7 アユ漁場の効率的利用に関する事 (1) 放流種苗の判別に関する事 (2) 放流種苗の資源生態特性に関する事 (3) 放流種苗の繁殖生態に関する事 (4) 環境収容力に関する事	木南 木南 木南 木南 木南	川合 川合 川合 川合 川合
8 内水面漁業・内水面環境に関する事 (1) 新成長戦略研究に関する事	木南 川合	川合 木南
9 普及指導の企画・推進に関する事	松山	鈴木(邦)
10 担い手の育成と確保に関する事 (1) 水産技術・経営の改善に関する事 (2) 後継者育成に関する事 (3) 沿岸漁業改善資金に関する事	鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 松山	松山 松山 松山 鈴木(邦)
11 地域水産業の振興に関する事 (1) 養鱒業に関する事 (2) 海産魚類養殖業に関する事 (3) その他の魚病対策に関する事 (4) 生産業務指導に関する事 (5) 内水面漁業に関する事	松山 松山 松山 松山 鈴木(邦) 鈴木(邦)	鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 松山 松山
12 水産技術情報の発信に関する事 (1) ホームページに関する事 (2) 広報誌に関する事 (3) 講習会・研修会の開催に関する事 (4) 展示室の管理に関する事 (5) その他の技術広報に関する事	鈴木(邦) 松山 鈴木(邦) 鈴木(邦) 鈴木(邦) 松山	松山 鈴木(邦) 松山 松山 植松 鈴木(邦)
13 その他普及事項に関する事	松山	鈴木(邦)

## 転入者自己紹介

はじめまして。県庁水産振興課から異動してまいりました木南(きなみ)竜平です。養鱒場では、主にアユ担当として研究を行うことになりました。

水産技師としてはまだまだひよっこで、遊漁や養鱒業界については知らないことばかりですが、皆様のお力添えをいただきながら、少しでも業界が良くなるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



## 富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t / 日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
2	112 (11)	91 (7)	3.49	2.83
3	141 (7)	193 (9)	3.37	3.11
4	228 (10)	219 (9)	4.08	4.11

\* 前年以前の20年間平均値

## 日誌

2月	3月	4月
1日 漁業士会総会(浜松)	～1日 全国青年・女性漁業者交流大会(東京)	2日 にじます料理研究会(静岡)
7日 食の都大路東部商談会(沼津)	3日 第24回にじます祭	11日 ウナギ調査地元説明(伊東)
7～8日 アユ資源研究部会(東京)	3日 イオン富士宮店ニジマスPR	12日 漁業士会役員会(静岡)
13日 にじます祭実行委員会(市内)	5日 水産マネジ研修発表支援(沼津)	13日 興津川保全市民会議(静岡)
14日 普及月例会(焼津)	6日 全湖研運営委員会(東京)	15日 研究調整課来場
21日 研究課題評価会議(焼津)	7日 普及課題成果報告会(焼津)	16日 ウナギ調査県庁説明(県庁)
23日 富土地域6次産業化試作品評価会(市内)	8日 研究課題評価会	17日 県かん水協会役員会(沼津)
23～24日 農芸品フェア(静岡)	8日 全国養殖衛生推進会議(東京)	18日 マーケ課事業説明会(静岡)
26日 駿河湾サーモン知事試食(県庁)	10日 興津川漁協総代会(静岡)	22日 ウナギ調査熱海土木説明(伊東)
27日 養鱒漁協GAP推進委員会(市内)	11日 魚病対策委員会技術部会(静岡)	23日 にじます祭報告会(市内)
28日～ 全国青年・女性漁業者交流大会(東京)	13日 普及課題設定協議会(焼津)	24日 鱒の家プレゼン(市内)
	15日 虹の里生産業務連絡協議会	25日 猪之頭公園運営協議委員会(市内)
	19日・27日 全湖研会計監査(浜松)	26日 コンプライアンス研修(静岡)
<視察見学対応>	21日 魚病対策委員会委員会(静岡)	<視察見学対応>
14日 井之頭幼稚園(22名)	27日 全湖研事務引継ぎ(滋賀)	21日 常葉大学1年生(100名)